

**残りの者**  
**シャーアル**

石巻祈りの家NEWS LETTER 「シャーアル」(97号)  
986-0801 宮城県石巻市水明北3丁目13番28号  
TEL /0225-96-1497 Email/ hjm-ja2@yg8.so-net.ne.jp  
振替口座 02290-6-126186 口座名称 阿部 一  
●代表/阿部 一 ●副代表/菊池せい子

## 信仰: 大震災五周年を経て

- 未だ経験も予想もしなかったあの東日本大震災がこの地を襲ってから5年を経ました。多くのいのちが失われ、自然が破壊され、営々と努力を積み重ねてきた住民の家屋や財産が一瞬に奪われ、被災者は絶望へと陥れられました。
- しかし、国内外から多くの支援ボランティアが悪臭の酷いヘドロと瓦礫の街に、蟻の集団のように挑戦し、一人一人のスコップ1回毎の労苦の積み重ねによって、希望が失われた街に、復興の光がもたらされました。
- 長期にわたって避難所で過ごさざるを得なかった被災者のために、日常の生活に欠かせない衣食等の生活物資が国境を越えた人々の愛と共に届けられました。
- 現在、復興住宅建設も道半ばで、まだ多くの家族が仮設で過ごしています。太平洋側の漁港周辺の山々は、高台移転地とビル何階にも相当する高さの土盛りのために裸にされています。「復興が終わった」と言う日がいつ来るのか予想も出来ない状況です。
- 今、この5年を振り返るときに、何よりも先ず、皆さんが下さった温かい愛の支援と励ましに、心が感謝で一杯になります。改めて、ご支援に心からの感謝を申し上げます。
- こんな小さな主の群「祈りの家」が、皆さんの支援の仲介活動拠点として神に用いて頂いて、アンテオケ教会の如く「きりすたさん」と呼んで頂ける働きが出来たことに、信じられない思いで、ただ神に感謝しています。
- 灯油は、4/4まで支援を続けますが、5年間、仮設入居者の必要を毎月調査して支援してきた「生活消耗品支援」を3月で一端終了しました。これからは、どういう形で本当に寄り添いが必要な人を支援できるか模索しながら支援活動を続けたいと思っています。申請書(この3月最後の生活消耗品6種支援)へ「この5年間、生活を支えて頂いて心から感謝します」という書き込みを読み、さらに、4/10の午後に仮設の方と出られた方が集って、教会への感謝の会を持って下さることを伝えられました。これらの感謝は、本来は支援して下さった皆さんが受けるべきものです。
- 私たちは、この災害を通して、神から委託される自然の管理を真剣に再検討する必要を迫られています。目の前の便利や豊かさに心奪われ、人間の限界を忘れ、科学知識へ過信が引き起こした福島原子力発電事故からも、何よりもいのちを大切に社会のあり方を問われています。
- 一方で、人間が創造された時に与えられた愛の働きがどんなに大きな力を発揮するかということも体験してきました。
- まだ復興への道は続きますが、今までの皆さんの継続的な支援に感謝し、私たちはさらに神のしもべとして弱き者たちへ寄り添い続ける事を願って、歩み続けたいと思います。続けて、祈りの支援をお願いいたします。

### 先月の多くの恵みから

- ① 皆さんの祈りに支えられ準備してきた本年度の「3.11東日本大震災追悼記念会」は、3/9に気仙沼第一聖書バプテスト教会、3/10は石巻渡波キリスト教会でのメモリアルコンサート、そして3/11の石巻みなと荘での追悼記念会も、アサフ、5人のアーティスト、この集会のために協力に来られた多くの兄弟のお陰で、祝された集会となり、神に感謝しました。
- ② 3/13の礼拝で、Holy Hope Projectの竹下 力師からメッセージの奉仕を頂きました。また、記念会に応援に来られた松浦 賢兄も礼拝に出席し群を励ましてくださいました。
- ③ 4/17礼拝は、メンターの森谷正志師がメッセージの奉仕



まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしましたのです。(マタイ25/40)

して下さいます。礼拝後に2016年度の年次総会を開き、2015年度の主の恵みと活動を報告し、2016年度の教会活動の計画と予算案等の検討をいたします。

- ④ 3/27のイースター礼拝は、例年同様に石巻山城町教会と一緒に捧げさせて頂きました。礼拝後に、一品持ち寄り祝会と主にある兄弟としての交わりをも楽しませて頂きました。
- ⑤ 2/13より毎週土曜日に継続されている馬つ子山山頂での市民の救いと宣教、被災地復興のための早天祈祷会に、3.11集会に来られた方や他地区の兄弟、ボランティアに来られた方も参加し、励ましを頂いております。
- ⑥ 3/4-5に、2011年震災直後にヘドロ上げのボランティアに来て下さった関口貴子さんが同じ教会のAさんと共に、その時に関わった家族を訪問して下さいました。2日目に日和山-女川-大川小学校-南三陸の被災地の現状を見て頂きました。
- ⑦ 3月も、礼拝参加や消耗品購入・支援活動・灯油購入資金の必要額を満たす献金、励ましの電話、メール、お手紙を頂きありがとうございます。
- ⑧ 3/15、アメージンググレース・センター(東松島市赤井)の開所式、3/19にはカナダの教会に招聘されたストレイカー宣教師家族の送別会、3/29 TBCのドロシー師のお別れ会に出席し、それぞれの活動に感謝を申し上げます。
- ⑨ 5/1は浜松ともみ師、5/15は永井敏夫師、6/5は竹下 力師が礼拝メッセージの奉仕をして下さることになっています。

### ■ 今月、次の課題を祈っていただければ幸いです。

- ① 2016年度教会年次総会(4/17)と2016年度の活動計画のために
- ② 地域から真剣に神を求める人が起こされるように。
- ③ 石巻宣教と救霊とネットワーク(IMN)のために。

### 群の定期集会

- ・礼拝(毎週日曜日) 10:00-11:30
- ・祈り会(毎週水曜日) 10:00-11:30
- ・聖書を読む会(第1火曜日) 10:30-12:00
- ・ほっと・Time(第3火曜日) 10:30-12:00
- ・コーラス「花」(第2,4木曜日) 13:30-15:00
- ・楽しい手芸(第2,4月曜日) 10:00-12:00
- ・学習支援(地域の子どもの要望に応じて)

### 信仰を詠う

#### 4月 大震災5年目、3月11日

時止まることなどありはしないよと  
行く雲追いて 追悼式へ  
歌集より わが歌吟す義妹の  
こころ やわやわ  
情うつして こえ優々と  
もの言わぬ心知らねで哀しむも  
祈りて受ける明日への笑顔



阿部 八重子

いつもの様に6時起床、9時始家族と260余名の犠牲者が出た檀家の追悼供養式へ。そして墓参、続いて教会合同開催の追悼記念コンサート。夕方より同期会開催の追悼会、終了21時。開催して下さる方々への感謝の日でしたが、疲れました。でも手足を伸ばして眠れません、嬉しいです。

# 3月に来訪されたボランティア・チームと先生方および仮設支援と教会活動の様子



宮城三陸 3.11 東日本大震災追悼記念会・追悼記念コンサート (3/9 気仙沼第一聖書バプテスト教会 3/10 石巻渡波キリスト教会 3/11 石巻「みなと荘」での記念会)



3/4-5 関口藩・安藤姉 被災者Iさんを再訪 3/17竹下御親敬事仕/松浦 寛兄礼拝出席 3/20礼拝に佐々木兄と佐藤兄出席 毎週土曜日市内一望できる馬つ子山で早天祈禱会



3/16 仮設を出た人もお茶っこに応援 3/1 「聖書を読む会」での様子 3/27 山城町教会で合同イースター礼拝 3/19 カナダに招聘のストレイカー家族送別会

## アドナイ・イルエ

「アドナイ・イルエ」=主の山に備え在りの意

### 私たちの教会活動の紹介 ⑧

#### 大震災支援活動：仮設支援②

阿部 一

このシリーズでは、私たちの家の教会の現在の諸活動の様子をお伝えします。今回は大震災支援活動の経過と震災5年まで継続支援してきた「仮設入居家族支援」の問題点と現状の報告です。

仮設入居者は、被災した様々な地区から抽選によって指定されて入居した人たちですから、この仮設団地で同じ被災者として助け合うコミュニティーを作るように働きかけました。他に私たちが支援した新館・浦屋敷地区や不動町地区、東中里地区では、元々のそこに住んでいた住民でしたから、班体制がうまく機能して、班長が各家庭の必要を調査するなどの協力が得られました。私はそれを集約し、支援団体へ要請したり、VVJや Converge Worldwide JapanのJohn Mehn宣教師を通して日本バプテスト連合から支援して頂いた資金を用いて、被災者が今最も必要とするものを地元で購入してお渡しできました。しかし、仮設では班を作り、班長を決めても、残念ながら殆ど機能しないために、最初は私たちの側で一切を仕切らなければなりませんでした。

現在、日本では町内会の仕事や消防活動などを担う協力が地区民から得られなくなっている事が問題になっています。大震災という今回の緊急状態の中でも、自分たちが協力して少しでも快適な生活をつくらうという男性の積極的かつ自主的な姿勢は見られませんでした。

仮設での孤独死や閉じ籠もりが問題になると、行政では「仮設見回り隊」という組織を作り、週に何回か各家庭を訪問し、声がけをするようになりました。発足当時は、この見回り隊と互いに情報交換ができ、一緒にイベントなども開くことができた良い関係でした。しかし、行政が2年目辺りからその見回り隊に活動の成果を求めるようになると協力出来るものはないかと申し出ても、自分たちの成果にするために露骨に拒否されました。誰のための支援なのかに大いに疑問を感じました。

仮設には、様々な支援団体が訪問し、イベントや炊き出しなどの形で関わってくれました。私たちの活動を通して、主に教会やクリスチャンのボランティアがコンサート、フラダンス、クラフト、講演会、物資支援、マッサージ、腹話術、お茶



っこでの交わり、炊き出しなど様々な形で多くの奉仕をして下さいました。特に2ヶ月に一度の割合で定期的にさまざまなプログラムを準備して訪問してくれた福音伝道協団の「イザヤ58ネット」の働きは、現場から見て被災者の心を繋ぐ大きな働きをしてくれたと高く評価しています。

一方で、今後のこのような震災の際に、是非、キリスト教会の支援活動で配慮して欲しいことがあります。それは、仮設を支援している地域教会を考慮し、主にある「キリストの教会」として一緒に協力してやって欲しいということです。

ある時、夜遅く仮設の入居者から電話が入り「先ほど、申し込んだ自転車で、ママチャリが欲しいのだが間違えてマウンテンバイクと言ってしまったから、変えて欲しい」ということでした。調べると、東京の教会が仮設を一軒一軒訪ねて自転車の必要有無を聞いていったということでした。

後日、その教会が夜に教会を訪ねてきて「仮設の〇〇さんが留守なので、明日取りに来るよう連絡してあるからこの自転車を預かって欲しい」という申し出でした。翌日、自転車を取りに来た仮設の人が「私は独り身で、車もあるので自転車はいらないのだが、ただくれるというので貰うことにした」と言うのです。その自転車は石巻ではもう手に入らない高級なもので、私たちの支援団体では中古の自転車の入手も難しかった頃です。

この出来事は、被災者に地元の小さな教会に頼むよりは名刺を置いていった大きな教会に頼めば良いものが手に入るという考えを刷り込みました。もしも、地元の教会と一緒に活動すれば、同じ神を信じている「キリストの教会」として、主に栄光を帰すことができるのです。その教会は一度だけの大盤振る舞いですが、地元の教会は息の長い継続的支援を続ける必要があるのです。

ある時、「クリスチャンと聞いてどんなイメージを持つ？」と被災者に聞いたところ、即座に「ものをただでくれる人」という答えが返ってきました。そして、リサイクルショップに多くの支援物資が出回っていたことは、本当の支援のあり方を再考するように促していると感じました。自分たちの教会は・・・という教会間で支援競争をしても何も生まれません。

被災地で活動を続ける地元の教会を生かし、本当に必要なものが必要な人に渡る共働きの働きをしたいものです。